

第14回 第1章 現代の政治

第5節 現代の国際政治

国際関係と国際法

講師
松野智樹

学習のねらい

国際社会を構成する主権国家がどのように成立してきたか、また国際社会のルールである、国際法についてどのような特徴があるか。そして、現代の国際社会で存在する主権国家以外の主体にはどのようなものがあるか学んでいきましょう。

調べておこう
覚えておこう

国際慣習法／国際司法裁判所／領域／国民／主権／
強制力／世界政府／ウェストファリア講和会議／条約／
非政府組織（NGO）／欧州連合（EU）／サミット／

※下記の空欄 _____ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

POINT 1

国際社会はどのように作られているか？

現在国際社会は、主権国家によって形成されています。

主権国家には、^① _____、^② _____、^③ _____、の三つの要素があります。これらの要素を満たし、他の国からの干渉を受けることなく自国のことを決定していくことが主権国家の条件です。主権国家の成立は、17世紀半ばの^④ _____ がきっかけであるとされています。この会議はヨーロッパで起こった三十年戦争の講和会議です。三十年戦争は、1618年～1648年までの間、カトリックとプロテスタントとの対立から発展した大きな戦争でした。この講和会議までは、カトリックの力が強く、神聖ローマ帝国が国家を超越した理念のもとで、ヨーロッパの西部を支配していました。この会議以降、主権国家によって国際社会が構成されていくことになります。

POINT 2

国際法と国内法の違いは？

現在の主権国家の集合である国際社会には、それをまとめる政府すなわち^⑤ _____ のようなものはありません。国際法は、^⑥ _____（国家間の慣習・しきたりが認められてきたもの）と^⑦ _____（締結国間の文書による合意）とに分けられます。国際法は国内法と異なり、制定する機関がなく、^⑧ _____ も十分ではありません。

紛争の平和的な解決のための機関として、紛争や対立が起きている国の間で、当事国双方の合意（判断を双方が求めたとき）があった場合に裁判が行われる^⑨ _____ や戦争犯

罪や虐殺などの非人道的な罪を犯した個人を裁く国際刑事裁判所があります。

POINT 3

さまざまな地域的組織や国際会議

現代では、国際社会において主権国家以外の主体が存在感を増すケースが増えてきています。1945年に国連憲章が採択され成立した、国際の平和と安全の維持を目的とした組織である国際連合のほか、^⑩.....、東南アジア諸国連合（ASEAN）、^⑪.....とよばれる主要国首脳会議などがあります。また、平和や人権などについて取り組む国際的な民間組織である^⑫.....も存在しています。



Handwriting practice lines with a left margin arrow.

- ⑧ 強制力
 - ⑨ 国際司法裁判所
 - ⑩ 欧州連合 (EU)
 - ⑪ サミット
 - ⑫ 非政府組織 (NGO)
 - ① 領域
 - ② 国民
 - ③ 主権
 - ④ ウエストアジア講和会議
 - ⑤ 世界政府
 - ⑥ 国際慣習法
 - ⑦ 条約
- 答え